

# くにびき通信

2023年 5月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

## はじめに

5月に入り、あちこちで田植え機が稼働しているのをよく見かけるようになりました。子どもたちも学校やセンターで田植えを行うなど、農作業に精を出しています。今年度からセンターとPTAが協力して、地元の子どもたちにもいろんな体験の場を提供する取り組みを始めています。ゆくゆくは、地域の方々にも参加してもらい、地域みんなでいろんな体験ができるような北三瓶になるといいなあと思論んでいます。（北三瓶にはそれができるポテンシャルがあると確信しています！）

さて、今年は大田市山村留学センター開所20周年の記念の年です。10月28日（土）には、国立三瓶青少年交流の家を会場にして記念事業を計画しています。それに合わせて、三瓶に嫁いだOG2人が同窓会を開きたいということで、同時進行でその計画を進めているところです。改めて、センターを巣立ったOBOGの存在のありがたさを実感しています。今年度、学園生は7名と若干少ない人数ですが、学園生はもちろん、北三瓶、大田市内、さらには全国の子どもたち、あるいはセンターを巣立ったOBOGの子どもたちやその保護者、多くの方々にとって意義あるセンターになるために、これからも様々な事業を展開していきたいと思います。

主任指導員 稲井祐介



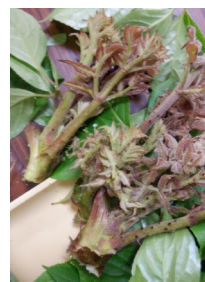
## 今回の活動カレンダー



日にち	活動内容
4月30日(日)晴れ	親子ハイク
5月1日(月)晴れ	三瓶登山
5月2日(火)晴れ	茶碗作り・琴ヶ浜
5月3日(水・祝)晴れ	畑作業
5月4日(木・祝)晴れ	畑作業

日にち	活動内容
5月5日(金・祝)雨	デイキャンプ
5月6日(土)雨	塩焚き
5月7日(日)雨	代かき(学校田)
5月20日(土)雨のち晴れ	田植え(徳原)・畑作業
5月21日(日)晴れ	田車押し(学校田)・畑作業

## 親子ハイク 4/30 (日)



山並みが風にそよそよと吹かれる、まさしく散歩日和だった親子ハイク当日。稲井指導員が気合を入れて作り上げたウォークラリーの設問を解いていながら、それぞれの家族が思い思いに北三瓶での時間を過ごしました。

設問で分からないことがあれば地域の方に聞いても良いというルールでしたので、進んで家を訪ねに行く学園生たち。都会ではなかなか出来ないこんなコミュニケーションが出来るのも、北三瓶の魅力と言えますね。

お昼は外でお弁当を広げハイキング気分。今年は例年と比べ山菜が芽吹く時期が早く、たくさん量は採れませんでした。ハナイカダやタラノメの天ぷらも合わせていただきました。

## 畑作業 4/17,5/3・4・20・21

毎年じゃがいも植えから始まる畑作業。基本の畝づくりをじゃがいも植えで学び、GWにはマイ畑づくりに着手しました。学園生それぞれが好きな作物を植えられるマイ畑。サツマイモ、キュウリ、トマトなどポピュラーな作物のほか、ゴマなどちょっと物珍しそうな作物に挑戦する学園生もいました。

昨年畑作業を経験している継続生の3人は、自分の畝づくりの傍ら新規生たちにやり方を教えるなど、継続生らしい頼もしさを見せてくれました。一方、センターでの畑作業は初めての新規生。特に畝作りでは「60cm幅のはずがそれよりも狭くなっちゃった!」、「稲井さんの畝みたいにきれいに作れない…」など、想像以上に繊細な畑作業に苦戦する一面もありながら、最終的には皆自分たちの力でマイ畑の畝を作りきることができていました。その2週間後には、作物を鳥獣に荒らされないように「鳥よけ」を設置。近くの竹やぶから竹を切り、それらを畑の囲いに固定する作業を行いました。皆、畑仕事を通じてワイルドさが身についてきたように思います。



## 茶碗作り 5/2 (火)



これから1年、食事を美味しく大切に食べるための器を作る行事「茶碗作り」。「私はこれを作るって決めてたんだ！」と早速手を動かす学園生や、「今年はどうしようかな～」と土をこねこねしながら考える学園生、それぞれマイペースで手びねり台に向き合いました。

洗いやすい実用性のある形にするか、自分の個性を表現するか？学園生たちの「色」がよく出る、楽しい時間になりました！

## デイキャンプ 5/5 (金・祝)

地域の子ども達も一緒に参加する…予定だったデイキャンプですが、激しい雨風により規模縮小の開催に。会場も裏山ではなく、センターの車庫の中となりました。

ミッションは「白米と豚汁を作り上げる」こと。それぞれ3チームに分かれ、継続生が新規生に教える形に。継続生は経験を「教える」学び、新規生は「デイキャンプの基礎」の学びを得る時間になりました。次のキャンプは晴れるといいな～！



## 塩焚き 5/6(土)



こだま学園では、日頃お店で売られている醤油・味噌のような調味料類を、自分たちで手作りする経験もします。それらに欠かせないのが「塩」。大田市の海水で絶品の塩をつくらしている仁摩町の工房にお邪魔し、塩づくりの工程の一部を体験させていただきました。

学園生たちが出来た塩を味見すると、「美味しい！」とやみつきになっていました(笑)。塩を焚くための薪は流木や木工の廃材を使用しているとのこと。無駄なくモノを活かす観点も学びになりました。

## 羊毛刈り祭り 5/6(土)

北三瓶で養羊（ようよう。羊を飼育すること）を営む笠木さん主催の「羊毛刈り祭り」に今回はじめて参加しました。

笠木さんが羊の毛で作っている生地・作品は高級品で、海外の展示会にも参入したこともあるのだそうです。そんな羊の毛を刈る光景を拝見できるとのことです。早速皆で牧場へ。敷地内を元気に走り回る羊たちの姿は本当に可愛らしく、中にはナデナデさせてくれる人懐っこい子羊さんもいました。

羊との触れ合いも毛刈り見学も貴重な体験。動物に癒される素敵なひとときでした。



## 代かき(5/7 学校田)→田植え(5/20 徳原)→田車押し(5/21 学校田)



今年度は徳原の田んぼと学校の田んぼで米作りをします（巻頭参照）。昔ながらの手法で作業を行う稲作体験。その1つ「代かき」はあいにくの小雨模様でした。決して行事日和の天気ではありませんでしたが、「雨に負けず心折れず、困難を乗り越える」という経験値を積むことが出来ました。最後は恒例の泥んこリレー。雨と泥にまみれて大笑いするという、現代ではなかなか目にすることがないであろう光景（笑）。貴重な経験ができました。その2週間後には田植えと田車押し。自分たちが蒔いた種の苗を自分たちの手で植え、田車で手入れしていきました。苦労した経験分、お米を美味しく感じることも間違いなし。秋の収穫の際には、ぜひこの苦労した5月の経験を思い出したいところです。

### 西村崇司のつぶやき

#### ＼自動販売機から物語が・・・／

ある国のある4人の若者がお菓子の自動販売機が置いてあるホールでおしゃべりをしているとき、そのうちの1人が、「ボタンを押すと無料で物語が出てくる自動販売機があれば良いのになあ」で始まる3月の新聞記事がとても印象に残っているので紹介しますね。「物語」と「無料（タダ）」がキーワードです。自動販売機つまり自販機は、飲料水だけではなくお菓子、アイスクリーム、ラーメン、弁当、おもちゃ、雑誌など多士済々。種類といい数といい日本の国ならではの広まった文化かもしれません。飲料水自販機は国内で225万台あるらしく、日本の人口1億2500万人で割ると55人に1台。筆者の住む町は人口250人くらいなので5台ある勘定になります。たぶん合っているので驚きです。本題にもどります。くだんの新聞記事には写真も載っていてわれわれにはなじみの四角い直方体のかたちではなく、「1 minute. 3 minutes. 5 minutes」と表示されたパネルの下に円筒形の機械が引っ付いていて、1分、3分、5分の3つのどれかのボタンを押すとその下の取り出し口から物語が書かれた紙が出てくるようになっています。1分のボタンを押せば1分で読める物語の長さのロール紙が、買い物に行ったときレジで出てくるレシートのように出てくる感じです。記事にあるように機械で文字を印刷すること自体は難しくはなく、問題は「どうやって無料とするのか」。なんと鉄道、空港、病院、博物館、公共施設窓口など利用者を待たせたり、列ができたりする施設が導入したり、導入を計画しているようで、その施設が機械の設置費用や電気代、作品購読料を払うことで自販機の会社は経営を成り立たせているようです。費用対効果という観点をとおりこして豊かな社会だなと感じます。また、「物語」に着目したこともすばらしいと思いました。物語とは小説や絵本のような物語性があるものと定義すれば、そういったたぐいの本を読まなくなって久しい一人として、ボタンを押せば、長くて5分の物語—どんな物語かも出てきてはじめてわかる—が、むかしからある「紙」に印刷されて読めるなんて素敵なことだと思います。「タダ」なところもとても気に入っています。こういった紙（贈り物）に関心のある知り合いに紹介する、時と場所や感想を書いて記念にとっておくといった使い方もできるでしょう。もしかすると小説やエッセーのほか絵本やマンガや絵画が出てくるかもしれないと想像することも楽しいです。この自販機、まだ日本には上陸していないらしく残念ですが、あったらいい程度におさめておくことでいつかどこかで巡り合える偶然性という楽しみとしてとっておきます。

## 「くにびき通信」2023年5月号

大田市山村留学センター こだま学園



HP

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694  
TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701  
Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市  
山村留学センター  
Sanbe Kodama Academy